

本丸

本丸は東側に張り出しを持つ特殊な形(加納城型)をしています。この張り出し部分には大手門があり、発掘調査ではその一部と考えられる遺構が見つかりました。

南門の調査では枡形が見つかりました。また、1445年に守護代斎藤利永が築いたといわれる中世加納城の土塁の一部と考えられるものも見つかりました。

本丸周辺の堀跡からは江戸時代の陶磁器や瓦が大量に出土し、堀障子も発見されました。



▲本丸全景(南から)



▲本丸北流の石垣



▲本丸大手北の堀障子



▲本丸堀出土遺物



▲本丸堀出土軒丸瓦



▲本丸南堀(南から)



▲本丸南門枡形(東から)



▲本丸堀出土遺物



▲本丸堀出土軒平瓦

発掘! 加納城

三の丸

三の丸には加納藩の役所がありました。

発掘調査では、三の丸南端の石垣や井戸が見つかり、17世紀代の陶磁器が多数出土しました。中世の区画溝も見つかり、たくさんの土師器皿が出土しました。中世加納城周辺の屋敷地の一部であることが推測できます。



▲三の丸全景(南から)



▲三の丸南端石垣(南から)



▲井戸(南から)



▲戦国時代の区画溝(北から)

二の丸

二の丸には城主の御殿がありました。

発掘調査では、東端の石垣の一部や礎石建物跡、土塁が見つかりました。北端の調査では大量の貝殻や骨が出土し、大名の食生活を知ることができました。

また、中世の土塁や礎石も見つかっています。



▲二の丸東面埋没石垣



▲二の丸北端石垣(北東から)



▲礎石建物跡(上空から)



▲二の丸出土貝・骨